

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成 28 年度

学校名	附属中学校
-----	-------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	各学年4月は「校外活動（3年生は修学旅行）」、5月は「校外学習」を実施し、フィールドワークを中心とした体験的な学習や、問題解決的な学習を行った。また、選択コース制の総合学習は、生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的に取り組むよう工夫を行った。
1-1-9	授業や教材の開発に地域の人材など外部人材を活用し、より良いものとする工夫の状況	ミャンマーの教育省の視察訪問団に、中学1年生の授業を行っていただき、アジアの地理学習を深めることができた。また、経団連からの依頼で、アメリカの教員視察団が来校した際、中学3年生の授業を行っていただき、日米の政治や文化の比較など、充実した授業を行うことができた。また、キャリア教育の一環として、卒業生の活用を積極的に行った。異業種の先輩から話を聞き、将来の進路選択の参考にすることができた。
1-2-2	児童生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組の状況	各学年NRT（標準学力検査）を実施し、その後の学力の経年変化を研究した。体力についても、各学年4月に保健体育の授業を中心に体力測定を行った。学力・体力ともに全国平均を上回っている。
2-1-2	生徒理解に必要な個人的資料や、進路情報についての収集・活用の状況	6月に各学年「生活実態調査」を行った。この調査は30年間に渡り継続して行っている。また学校教育局の心理職の先生方と連携し、「メンタル調査」を実施した。さらに、「いじめの実態調査」も実施した。担任は、生徒一人一人と、年間4回個人面談を行い、保護者とも個人面談を最低年1回、また必要に応じて随時行った。これらの情報や資料を総合して、生徒理解や生徒指導・進路指導に活用した。
4-1-1	児童生徒を対象とする保健（薬物乱用防止、心のケア等を含む）に関する体制整備や指導・相談の実施の状況	薬物乱用防止については、保健体育科を中心に指導した。さらに、集会では、校長による講話の中で触れたり、薬物乱用防止に関連する研究の成果をポスターにして廊下に掲示したりするなど、その防止に努めた。
8-1-1	授業研究の継続的实施など、授業改善の取組の状況	11月に研究協議会を実施した。全教科及び道徳の研究発表を行い、参加者は700名余りで盛況であった。
8-1-5	臨時採用・非常勤講師等の非正規採用教員の資質の確保・向上に向けた取組の状況	優秀な非常勤講師やALTを確保するために、保護者の後援会費から講師謝金を補填している。東京都の非常勤講師と同水準になるようにした。
14-1-2	大学との連携・協力	四校研を通して小中高一貫のカリキュラム研究を行った。また、教員免許状更新講習の実践演習を6時間、年2回実施したり、オリンピック・パラリンピック教育に協力したり、大学との連携・協力を図っている。
14-1-5	国際交流・国際貢献	北京のホイジア中学校やシンガポールのホアチョン中等学校との交流会を実施するとともに、春休みに2名の中学生がホアチョン校へ、附属高校生とともに短期留学を行った。また米国への短期留学も派遣人員を増やし、国際教育を推進した。 海外からの視察も積極的に受け入れ、授業公開の後、質疑応答を行い、日本の教育について説明し交流を深めた。来校者は、APEC視察団、アメリカ、インドネシア、中国、タイ、ミャンマーなどであった。